

## 論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	成育科学領域周産期医学教育研究分野 氏名 大石舞香	
指導教授氏名	横山良仁	
論文審査担当者	主 査 伊藤悦朗 副 査 今泉忠淳	副 査 大山 力

## (論文題目)

Hypertensive disorders of pregnancy increase the risk for chronic kidney disease: a population-based retrospective study

(妊娠高血圧症候群は慢性腎臓病のリスクを増加させる—一般住民を対象とした後方視的検討—)

## (論文審査の要旨)

妊娠高血圧症候群 (Hypertensive disorders of pregnancy : HDP) と慢性腎臓病 (Chronic kidney disease : CKD) はいずれも将来的な心血管疾患発症のリスク因子であることが知られている。しかし、HDP と CKD の関連について明らかにした研究は少なく、しかも無症候性の CKD が全く含まれないという問題があった。そこで本研究では、HDP と無症候性を含む CKD の関連について明らかにするため、一般住民を対象とした調査研究を行っている。

対象は、2011 年～2015 年の岩木健康増進プロジェクト参加者のうち、①35 歳以上、②単胎妊娠、③妊娠中に 5 回以上の血圧測定が行なわれている 312 名の女性であった。HDP については母子手帳のデータから日本妊娠高血圧学会の定める基準により判定した。CKD については健診参加時の血清クレアチニン値より eGFR を算出し、60 未満を CKD と判定し、HDP とその後の CVD 発症リスクとの関連について統計学的解析を行った。

得られた結果は以下の通りであった。

- 1) 健診参加時の HDP 既往女性群と非 HDP 既往女性群の比較では、現在の血圧、高血圧発症率及び CKD 発症率はいずれも HDP 既往女性群において有意に高かった。
- 2) CKD 発症リスクに関する多変量解析を行ったところ、調査時の高血圧症と HDP 既往が CKD 発症の独立したリスク因子であることが示された。

申請者は以上の結果から妊娠中に HDP を発症した女性は、正常妊娠であった女性と比較して将来の CKD 発症リスクが 4.9 倍になると結論している。妊娠、分娩を経験する若年世代のうちから、将来の CKD、それに引き続く心血管疾患のリスクが明らかとなることは、予防医学の観点からも重要であると考察している。これらの結果は、新知見を含み、かつ、臨床的意義が高く学位授与に値する。

公表雑誌等名	Clinical and Experimental Hypertension に掲載予定
--------	----------------------------------------------